

Scrum —スクラム—

襷(たすき)をつないで

東京都教育庁指導部特別支援学校教育担当課長 朝日 滋也

3月20日に、第4回中学生「東京駅伝」大会が、味の素スタジアム・都立武蔵野の森公園特設周回コースにて行われました。各区市町村から選抜された中学校2年生の活躍は、見事なものでした。

駅伝の醍醐味は、1本の襷(たすき)をチーム全員が力を合わせてつなぐことにあります。前の走者が力の限り走って、次の選手が襷をつないでいく。全ての選手によって襷が引き継がれたとき、栄光のゴールが待っているのです。

学校教育も、駅伝に似ているところがあります。一年、一年の学習の成果を、いかに次の学年、あるいは、次の学校に有効に引き継いでいくかがとても大切です。駅伝で言うところの中継地点は、まさに学年末、あるいは進学・進級の機会と言えるのではないのでしょうか。

昨今、中学校や高等学校では、入学直後の4月に各教科のテストを行い、その分析結果を、習熟の程度に応じた指導など、指導方法の工夫に生かそうとする動きがあります。大学においても、入学後の英語のクラス分けをするために、新入生に対してTOEICなどの試験を課すところが増えてきています。

本来ならば、それまでの学習の成果がより客観的に進級・進学先に先に引き継がれていくと、4月早々の試験もそれほど課す必要はなくなるのではと思いますが、授業改善の一つの試みなのでしょう。

特別支援教育においては、それまでの支援の方法や有効な配慮について「個別の教育支援計画」を使って行うことが推奨されています。しかし、「個別の教育支援計画」を用いて引継ぎが円滑に進んでいる例はまだ多くはありません。新しい学年や学校へ、従前に受けていた支援などについて、前任者から申し送りがなされることで、進級直後からより適切な支援を実施することができます。

この春、多くの子供たちが進級・進学を迎えます。一人一人の良さと配慮事項を、確実に引き継いでいくことができるように、学校間で必要な連絡、連携をとっていただきたいものです。

《 目 次 》

- こうすれば、必ず学力は向上する!! . . . 2
～都学力調査において顕著な正答率を示した教科の担当者(中学校)へのアンケート結果から明らかになった東京都の先生たちの工夫～
- 「子供の学びを共に支えましょう『学びを支えるスクラム』」を作成しました。 . . . 4
- 「道徳教育の窓」－東京の子供たちの豊かな心を育む－ . . . 6
- 「理数教育の窓」－理数好きの子供たちを育てるために－ . . . 7
- 「特別支援教育の窓」－全ての学校で実施する特別支援教育の推進を目指して－ . . . 8

★ 本メール・マガジンの配信を希望する方は、件名に「メール・マガジン配信希望」、本文に所属・氏名を入力いただき、S9000024@section.metro.tokyo.jp へメールを送信してください。また、メール・マガジン「Scrum」のバックナンバーは、東京都教育委員会ホームページ>学び応援ページ>確かな学力 で御覧いただけます。

なお、本メール・マガジンは、pdfファイルにて提供いたしますので、携帯電話では読むことができない場合があります。

こうすれば、必ず学力は向上する!!

～都学力調査において顕著な正答率を示した教科の担当者(中学校)へのアンケート結果から明らかになった東京都の先生たちの工夫～

「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(都独自の学力調査)の中学校の結果を分析してみると、下の表のように、同一中学校内で、ある教科が他教科と比較して高い正答率を示す例があります。

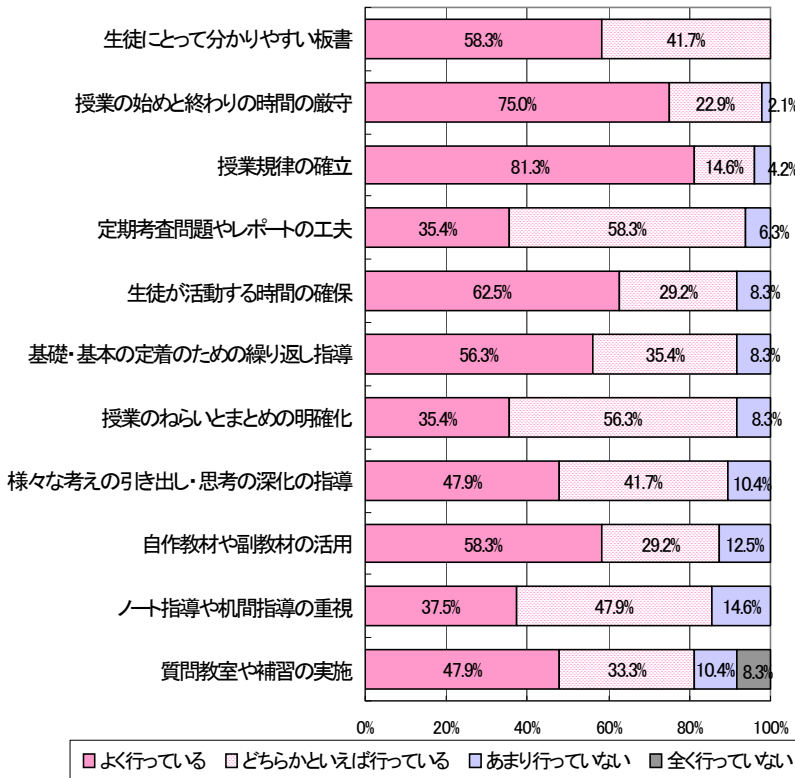
| | 国語 | 社会 | 数学 | 理科 | 英語 |
|------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| A中学校の平均正答率 | 70.4 | 35.4 | 51.1 | 47.8 | 62.6 |
| (都の平均正答率) | (78.7) | (46.8) | (54.5) | (51.4) | (55.9) |

都教育委員会では、このような傾向を示す教科の担当者は、学力向上に極めて有効な「工夫」をしており、その「工夫」は全都の先生方にとって参考になると考えました。

そこで、平成24年度の都の学力調査結果において、同一中学校内で、他教科と比較して顕著な正答率を示した教科の担当者48人(5教科合計)を対象に、「指導方法や指導内容についての工夫」及び「学習意欲を喚起するための工夫」に関するアンケート調査を実施し、その結果をまとめましたので、以下報告します。

I 指導方法・指導内容に関する工夫

「指導方法・指導内容の工夫」について、予想される工夫の例を20項目挙げ、それぞれについて、「よく行っている」「どちらかといえば行っている」「あまり行っていない」「全く行っていない」の4段階で回答していただきました。ここでは、「よく行っている」及び「どちらかといえば行っている」の合計が80%を超えた11項目を紹介します。



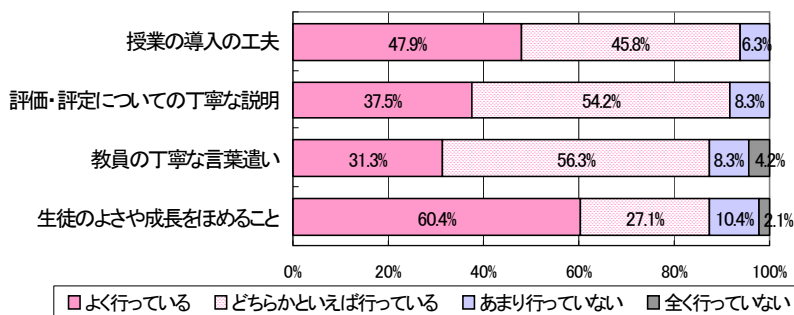
□ 「分かりやすい板書」の項目については、全員が「よく行っている」「どちらかといえばよく行っている」と回答しています。

□ 「よく行っている」の回答率に注目してみると、「授業規律の確立」と「授業時間の厳守」が、高い数値を示しています。

□ また、「分かりやすい板書」「生徒の活動時間の確保」「自作教材・副教材の活用」「基礎・基本の定着のための繰り返し指導」についても、約6割が「よく行っている」と回答しています。

Ⅱ 学習意欲の喚起に関する工夫

「学習意欲の喚起」についても、工夫例を10項目挙げ、それぞれについて4段階で回答していただきました。ここでも、「よく行っている」及び「どちらかといえば行っている」の合計が80%を越えた4項目を紹介します。



- 「よく行っている」「どちらかといえばよく行っている」の合計は、「授業の導入の工夫」が最も多くなっています。
- 「よく行っている」の回答率が最も高いのは、「生徒のよさや成長をほめること」となっています。

Ⅲ 「工夫」に関する自由記述

今回の調査では、「普段からよく行っている工夫」についての自由記述もお願いしました。そのうちのいくつかを紹介します。

- * 小テスト、ドリル学習、復習テストなどを繰り返し実施している。(全教科)
- * 学習内容を、生徒の身近なことや興味があることに結び付けている。(国・社・理・英)
- * 意見を述べる際、必ず理由を述べる習慣を定着させている。(国語)
- * 生徒がしっかりと考える時間と発言の機会を、十分にとっている。(社会)
- * 必ず全員に発言させている。(数学)
- * 生徒の思考を促す内容の教材を作成している。(理科)
- * ペアワーク等、生徒自身が活動できる指導内容を考えて授業に臨んでいる。(英語)

キーワード

- ❖ 反復学習
- ❖ 基礎・基本の徹底
- ❖ 生徒が活動する機会の確保
- ❖ 生徒の思考・表現の促進
- ❖ 日常生活と学習の関連付け

Ⅳ アンケート結果から…

生徒の学力を確実に向上させている先生たちは、次のような取組を行っています！



- ❖ 授業規律を確立する
- ❖ 生徒を大切にする
- ❖ 興味・関心を喚起する
- ❖ 基礎・基本を徹底する
- ❖ 活動時間を確保する
- ❖ 生徒のよさを認める

授業の開始・終了時間の厳守や挨拶の励行
 分かりやすい板書や自作教材、教師の丁寧な言葉遣い
 授業の導入の工夫、学習内容と身近な事象との関連付け
 小テスト、反復学習、質問教室・補充学習
 生徒の思考・判断を促す時間や、表現する場の確保
 一人一人への声掛け、個人内評価の充実

新5年生の保護者の皆さんへ 「子供の学びを共に支えましょう『学びを支えるスクラム』」 を作成しました。

まもなく新年度を迎えます。進学・進級に向けて、子供たちも胸を躍らせていることでしょう。

さて、東京都教育委員会では、平成24年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果分析を基に、パンフレット「子供の学びを共に支えましょう『学びを支えるスクラム』」を作成し、4月から5年生になる児童の保護者の皆さんに配布します。

児童一人一人に確かな学力を育むためには、家庭・学校・地域のより一層の連携が大切です。

本パンフレットの趣旨を保護者の皆さんに御理解いただき御活用いただけるよう、御協力をお願いいたします。また、保護者会等におきましても、是非御活用ください。



1 課題が明らかになった問題と家庭での取組例

「児童・生徒の学力向上を図るための調査」から、課題が明らかになった問題を紹介しています。
理科では、日常生活の中で見られる結露について、考察する問題を取り上げています。

理 科 学習内容を生活の中の現象と関係付けることに課題があります。

結露に関する問題

【図1】や【図2】と同じ理由で起こることとしてふさわしいものを、次のアからエまでの中から2つ選び、記号で答えましょう。

ア 春のよく晴れた日に、十分に水をあげている植物の葉にふくろをかぶせた。数時間後には、ふくろの内側に水できがついていた。

イ 夏の暑い日に、冷房をきかせたすずしい部屋から、気温の高い屋外に移動した。その後、少し歩くと、顔や体からあせがでてきた。

ウ 秋のよく晴れた日の早朝に、散歩をした。地面はぬれていなかったが、草には水できがついていた。

エ 冬の寒い日に、雪かきをした。雪かきを終え、外からあたたかい部屋の中にもどると、かけていたメガネが白くもった。

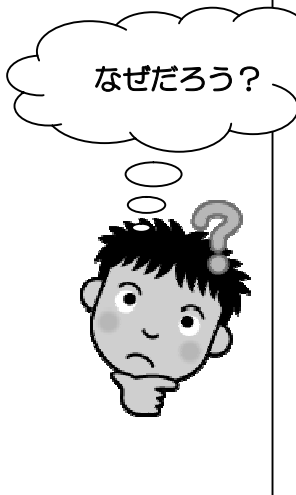
【児童の解答】 正答「ウ・エ」
正答した児童の割合 12.8%

【図1】よく晴れた冬の寒い日の朝にまだに水できがつく様子

【図2】コップのまわりに水できがつく様子



御家庭で取り組んでいただきたい事例を紹介しています。
ここでは、「なぜ」という視点をもつと、普段何気なく使っている「はさみ」からも、様々な事象について考えられるという事例を紹介しています。



取り組んでみましょう!

身近な生活の中で見られる出来事と学習したことを関係付けながら考えることが大切です。

身近な生活の中で見られる出来事について考えさせてみましょう。

① おや、何をしているんだい?

② はさみで紙を切っているんだけど、うまく切れなくて・・・。

③ どうしたら、うまく切れるのかな。いろいろと考えてごらん。

④ あっ、はさみの奥のほうで切ると簡単に切れるよ。

⑤ なぜ、はさみの奥のほうで切るとうまく切れるのかな。

⑥ そうか、てこの原理だ。この間、授業で学習した内容だね。

力点 作用点

問いかけてみよう

- どのように薪を置くか
- 今日見える月の形は
- 容器に入れた飲み物の

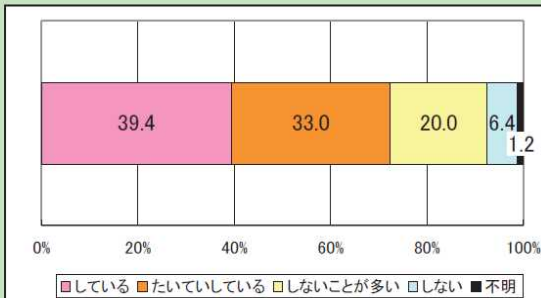
身近な生活の中での出来事や、身の回りのものなどに、興味や関心をもって接することができるようにしていくことが大切です。



2 「児童の学習や生活に関する意識」と「学力」とのかかわりについて

3 家の人と、学校や社会の出来事について話をしていますか。

【家の人と話をすることについての調査結果】



【家の人と話をすることと平均正答率との関係】

| 学校や社会の出来事について話をしているか | 4教科の平均正答率 |
|----------------------|-----------|
| している | 64.6% |
| たいていしている | 62.0% |
| しないことが多い | 58.2% |
| しない | 52.8% |



70%以上の児童が、家の人と、学校や社会の出来事について話を「している」又は「たいていしている」と回答しています。また、家の人と、学校や社会の出来事について話をしている児童ほど、4教科の平均正答率が高い傾向にあります。児童と学校や社会の出来事について話をする機会を設け、コミュニケーションを図るようにすることが大切です。

児童質問紙調査から、「児童の学習や生活に関する意識」と「学力」とのかかわりについて、明らかにしています。

家の人と、学校や社会の出来事について話をしている児童は、「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の平均正答率が高い傾向があります。

日頃から、児童が社会の出来事に関心をもったり、それについての自分の意見や考えを伝えたりする機会を設けることの大切さを紹介しています。

学力の定着を図るためには、基本的な生活習慣や学習習慣を確立させることが大切です。



3 《日々の生活を見つめ直す10のポイント》

基本的な生活習慣や学習習慣について、日々の生活をお子様と一緒に確かめ、チェックするために、**〈日々の生活を見つめ直す10のポイント〉**を挙げています。ここでは、その一部を御紹介します。

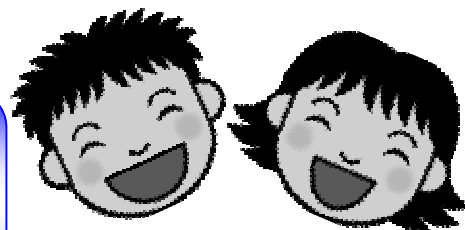
ポイント①

自分自身で時間を決めて起床、就寝ができていますか。

平成25年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(小学校第5学年・中学校第2学年対象)は、平成25年7月4日(木)に実施します。

ポイント④

テレビを見たり、パソコンやゲームをしたりするときのルールを守っていますか。



ポイント⑧

家の中で自分が担当する仕事を決めて、実行していますか。

「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の問題や結果を御覧になりたい方は...

検索 東京都教育委員会>学び応援ページ>確かな学力 で御覧いただけます。

http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/buka/shidou/chosa_top.htm

「道徳教育の窓」

— 東京の子供たちの豊かな心を育む —

中学校の道徳の時間での実践例②

東京都道徳教育教材集 中学校版「心みつめて」を活用した実践例を紹介します。

中学校第3学年 道徳（終末の段階での活用）

- 1 主題名 思いやり 2 - (2) 関連項目：家族愛 4 - (6)
- 2 資料名 「祖母と私」(第24回全国中学生人権作文コンテスト入賞作文)
『思いやり』って何だろう? (「心みつめて」132頁-133頁)
- 3 ねらい 他者の立場を尊重し、感謝と思いやりの心をもって人に接することのできる態度を育てる。
- 4 指導過程

(導入) ◇ 高齢者が困っている場面について考える。

- ・発問 「日頃、高齢者の方が困っている場面を見かけたことがありますか。」

生徒が、教師や友達の経験を聞きながら、自分の経験を想起できるようにする。

日常的によくある身近なことに気付かせ、ねらいとする道徳的価値への方向付けを図ることが大切です。

(展開) (1) 「祖母と私」を読み、祖母に対する「私」の気持ちについて考える。

<資料概要>

「私」の家族は毎年、父、母、自分、弟、そして祖母の5人で旅行に行っている。しかし、祖母が突然の病気にかかり、一人では歩けなくなってしまった。

家族で話し合い、祖母以外の4人での旅行を計画していたが、話は弾まない。そのとき、弟の「歩けなくなったら一緒に行けばいい。」の言葉がきっかけとなり、祖母は車いすを使ってみんなで旅行に行くことになった。旅行先での周囲の人々の祖母に対する温かい態度に、「私」も祖母も心を打たれる。

(2) 『思いやり』って何だろう? の132頁、『行為の意味』(宮澤章二)を読み、「祖母と私」と関連させながら考える。

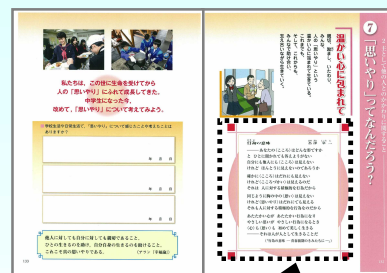
- ・『こころ』はだれにも見えないけれど『こころづかい』は見えるというのは、どういうことだろう。
- ・『思い』は見えないけれど『思いやり』はだれにでも見えるというのは、どういうことだろう。
- ・最終連の4行は、どんなことを言っているのだろう。
- ・『行為の意味』を読んで、どんなことを考えたか。

(3) 身近な高齢者との関わりと思いやりについて、『思いやり』って何だろう? の133頁を活用して、自分との関わりで考え、発表し合う。

(終末) ◇ 教師自身が高齢者を支援したときの話をする。

東京都道徳教育教材集の第3章、導入の段階や終末の段階などで活用することができます。また、学校の教育活動の様々な場面で活用できるように内容や構成を工夫しています。

「心みつめて」132-133頁



『行為の意味』(宮澤章二)

自分ならどう行動するかなど、生徒が自分のこととして考え、ねらいとする道徳的価値を主体的に追求することが重要です。したがって、資料に書かれていることについて正答を求めるような発問ではなく、資料をきっかけにして、生徒が感じたことや考えたことを問うことが大切となります。

東京都道徳教育教材集小学校用《平成25年度配布》として、1・2年生版「心あかるく」、3・4年生版「心しなやかに」、5・6年生版「心たくましく」、活用のための指導資料、保護者用リーフレットを各学校に配布いたしました。また、平成25年4月22・23日には、小学校の教員を対象に、教材集の内容及び活用についての説明会を開催いたします。

「理数教育の窓」 — 理数好きの子供たちを育てるために —

薬品の適切な保管・管理の徹底を！

理科の実験等において使用する薬品の保管・管理については、事故の予防に向けて万全の対策をとっておかなければなりません。

しかしながら、平成 25 年 3 月 7 日付 24 教指義第 693 号にて、区市町村教育委員会宛てに通知したとおり、都立高等学校において薬品が紛失する事故が発生しました。

そこで、今回の「理数教育の窓」では、薬品の保管・管理に関わるポイントをいくつか紹介します。各学校におかれましては、下記の内容を参考にして、改めて薬品の適切な保管・管理の徹底に努めていただきたいと思います。

薬品の保管・管理に関わるポイント（例）

1 地震への対策

- ◆ 右の図のように、薬品庫を固定するとともに、薬品瓶が倒れないように整理箱に入れておく。

2 薬品瓶が割れたときの対策

- ◆ トレーや砂箱などに薬品瓶を入れておき、万一のときの流出を防止する。
- ◆ 化学反応が起きないように、薬品を分別しておく。

3 火災への対策

- ◆ 燃料用アルコールなど可燃性の薬品を大量に保管しない。
- ◆ 爆発の恐れのあるアルミ粉末や炭素粉末などを可燃物（メタノール、アセトンなど）と一緒に保管しない。

4 不審者等への対策

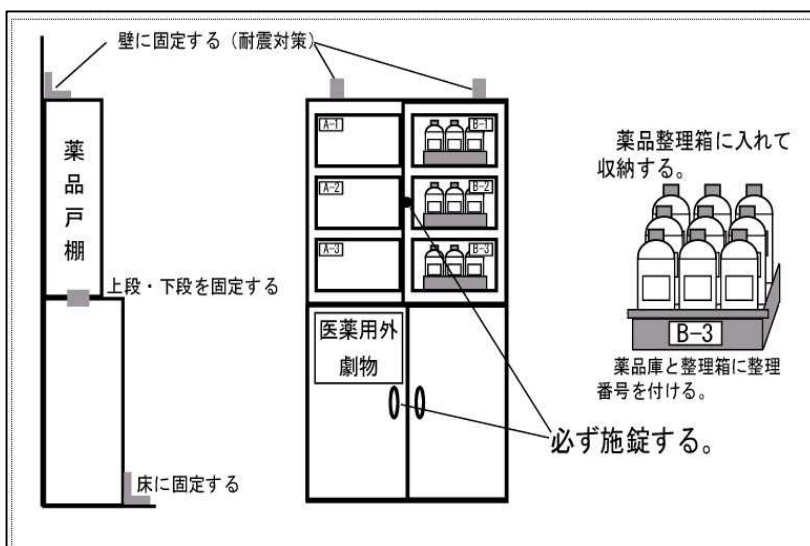
- ◆ 薬品庫は、授業中を含めて必ず施錠する。
- ◆ 薬品使用簿を常備し、薬品の現有量が常に分かるようにしておく。また、薬品使用後に各教員が必ず使用量や現在量等を記入するよう徹底する。

5 事故発生時への対策

- ◆ 薬品の管理責任者など薬品の管理体制を決めておく。
- ◆ 具体的な危機管理マニュアルを整備し、盗難及び災害時等の緊急連絡体制を確認しておく。

6 廃液等の処理

- ◆ 授業の前に、実験で発生した廃液処理の方法を確認しておく。
- ◆ 実験後の廃液は、多くたまらないうちに処理をする。
- ◆ 使用しない薬品は、専門業者に委託して廃棄する。



薬品使用簿（例）

| 分類 | 薬品名 | 保管場所 | 容量 | 4月8日現在の量 |
|----|--------|------|-----|----------|
| 劇 | アンモニア水 | A-1 | 500 | 1 1/3 |

* 最近3年間の年間使用量 250ml

| 月 | 日 | 購入量 | 使用量 | 現在量 | 使用者・備考 |
|---|---|-----|-----|-----|--------|
| | | | | | |

<参照>

「安全教育の手引き」（平成 18 年 3 月 東京都教育委員会）

東京都教育委員会ホームページからダウンロードできます。

URL http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/buka/shidou/anken_tebiki.htm

「特別支援教育の窓」

—全ての学校で実施する特別支援教育の推進を目指して—

児童・生徒の進級・進学に当たって

児童・生徒にとって、進級や進学はうれしい反面、新しい環境に対する不安も大きいものです。特別な支援を必要とする児童・生徒の場合、環境の変化を敏感に感じ取り、学習に落ち着いて取り組むことができなくなることがあります。

児童・生徒が期待や希望をもって新学期の生活をスタートできるよう、個に応じた支援の手だてなどを丁寧に引き継ぐ必要があります。

指導の手だてや児童・生徒の様子を具体的に伝えます。新学期も、新担任の相談に乗るなどし、連続性のある指導や支援を心がけましょう。



前任

児童・生徒の情報、指導の手だて

質問・相談



新任

児童・生徒の様子や配慮事項について聞き取ります。引継ぎの後も気になることがあれば積極的に質問や相談をしましょう。



引継ぎには「個別の教育支援計画」を活用しましょう。

引継ぎのポイント

- 児童・生徒が安心して新学期を迎えることができるようにする。
 - 児童・生徒が自信をもってできる学習や活動を引き継ぐ。
 - 児童・生徒が得意なことやこの1年間でできるようになったことなどを、指導や学級経営の中で生かしていくことができるようにしましょう。
 - 安心する言葉かけやかかわり方の工夫を引き継ぐ。
 - 児童・生徒への言葉のかけ方や本人とのコミュニケーションの手段として活用できるサインなどを、前任任から引き継ぎ、新年度につなげることが重要です。
 - 集中して学習に取り組める環境設定の工夫を引き継ぐ。
 - 黒板や壁面の掲示、座席配置の工夫など、児童・生徒が集中して学習に取り組める環境を、無理のない範囲で整えるようにします。
- 児童・生徒を理解し、一人一人に応じた効果的な指導や支援を行う。

次のような点についても、個別の教育支援計画を基に前任任から聞き取り、指導に生かすことができるようにしましょう。

 - 本人・保護者の将来の希望や学校生活に対する期待
 - 不安なとき、困ったときの様子や対応の仕方
 - 休み時間の過ごし方や友達とのかかわり方
 - 医療機関、相談センター、地域の人とのかかわり



◆ 保護者との共通理解..

学校生活や将来に対する本人・保護者の願い等を十分に理解し、その心情に寄り添うことが大切です。年度初めには、「個別の教育支援計画」を基に保護者との面談を実施し、学校に対する要望や長期的な支援の目標などを確認しましょう。

◆ 個別指導計画を活用した引継ぎ..

個別指導計画は、個別の教育支援計画の支援の目標に基づき、学期ごとや学年ごとの具体的な指導目標や内容、指導の手だてを示したものです。個別指導計画を活用し、各教科等における指導の経過や評価を確実に引き継ぎ、教員間で共通理解を図るようにしましょう。

児童・生徒と保護者が安心して新学期の生活を始めることができるようにしましょう。